

序

当院はこの数年間に、地方独立行政法人化等の様々な変革を行って参りましたが、平成 25 年度の最も大きな事業として、りんくう総合医療センターと大阪府立泉州救命救急センターの統合が挙げられます。すでに 2 年前から準備を進め、病院内の改築工事を行ったり、職員の交流は始まっておりましたが、漸く平成 25 年 4 月 1 日に一つの病院としての運営が始まりました。救命センターは「大阪府泉州救命救急センター」と名称を改めましたが、泉州地域の三次救急医療を担うという使命に変わりはありません。さらに各専門診療科と密に連携することで、救急医療の質の向上を図ると共に、二次救急医療でも救命救急医の力が発揮できる体制とし、総合的に泉州地域の救急医療の発展に繋がって行くものと考えます。全く診療体制の異なる二つの病院の職員が、同じ意識の下で働くには多くの障害がありましたが、各部署の職員の努力によりそれを乗り越えて、新しい「りんくう総合医療センター」として順調に船出が出来たと思っております。

また平成 25 年 4 月より新しい診療科として、総合内科・感染症内科を開設する事ができました。当初は 2 人の医師でスタート致しましたが、現在最も必要とされている診療分野でもあり、その診療内容や指導体制が若手医師の魅力となり、徐々に医師数も増えてきております。相対的に内科医師が減少してきた当院にとっても、内科診療全体の向上のために大いに期待しているところです。

さて、平成 21 年に創設されました大阪府地域医療再生計画（泉州医療圏）も、平成 25 年度が最終年となりました。この間、種々の事業を行って来ましたが、大阪大学と近畿大学に設立した地域医療の寄附講座は平成 26 年度以降も継続することが決まりました。引き続き地域医療の発展に寄与するものと思います。また、地域医療連携を進めるための診療情報連携システム「なすびんネット」につきましては、幾つかの医療機関の御協力で、10 月より試験運用を開始致しました。その中で問題点等を修正し、説明会も回数を重ね、予定通り平成 26 年 4 月からの本稼働に結び付けることが出来ました。今後は出来るだけ多くの医療機関に参加して頂き、診療情報の共有のみならず、地域連携のツールとしても利用して行きたいと思っています。特に診療報酬の改訂においても地域医療連携が重視されてきており、各医療機関の皆様との連携が今後はキーポイントになるものと思われます。

また、12 月には日本医療機能評価機構の病院機能評価の審査を、新しいバージョンで受審致しました。今回も病院全体で取り組んで参りましたが、追加調査もなく、比較的高い評価をいただき、無事に認定を得ることが出来ました。さらに例年は、年末年始に病床稼働率が大幅に低下し、収益減少の一因となっていました。今年度は医師、看護師はじめ多くの職種が対応を検討し、新しい取り組みも実行し、稼働率の低下を最小限に止めることが出来ました。この様に病院職員が一丸となって、病院運営に協力しているところです。

今後とも職員一同、地域医療の発展のため全力を注ぐ所存ですので、皆様方には今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 伊豆蔵 正明